

秋学期「経済学と聖書」第2回  
危機のなかで平安を取り戻す 詩篇62：1～2

讚美歌21 170

- 1 わが魂よ、主をたたえよ、いのちの限り わ  
れは歌う。あらゆるものは みな主のもの。  
生ける限りは 神をたたえん。
- 2 ヤコブの神に ただひたすら 頼れるものは  
幸いなり。いかによきかな、その望みを わ  
れらの神に つなぐものは。
- 3 天と地と海 生けるものを すべて作りし 主  
なる神の 恵みの みわざ 照り輝く。力に満て  
る 神をたたえん。
- 4 正義、真実、主はつらぬき しいたげられし  
民をまもり 飢え渴く者 顧みたまう。そのみこ  
とばの 語るごとく。
- 5 世の暗き道 さまようもの、望みなき身を  
嘆くものよ、光の主こそ ながさめぬし。主は友  
となり 励ましたまう。
- 6 ああ、主のほまれ いかにたたえん。主は  
とこしえにわれらの王。わが魂よ、主をたたえ  
よ、いのちの限り 主にハレルヤ。

2020年10月2日

EG 302 Du meine Seele, singe T:Paul Gerhardt M:Johann Georg

- 1) Du meine Seele, singe, / wohlauf und singe schön  
dem, welchem alle Dinge / zu Dienst und Willen stehn.  
Ich will den Herren droben / hier preisen auf der Erd;  
ich will Ihn herzlich loben, / solange ich leben werd.
- 2) Wohl dem, der einzig schauet / nach Jakobs Gott und Heil!  
Wer dem sich anvertrauet, / der hat das beste Teil,  
das höchste Gut erlesen, / den schönsten Schatz geliebt;  
sein Herz und ganzes Wesen / bleibt ewig ungetrübt.
- 3) Hier sind die starken Kräfte, / die unerschöpfte Macht;  
das weisen die Geschäfte, / die Seine Hand gemacht:  
der Himmel und die Erde / mit ihrem ganzen Heer,  
der Fisch unzähl'ge Herde / im großen wilden Meer.
- 4) Hier sind die treuen Sinnen, / die niemand Unrecht tun,  
all denen Gutes gönnen, / die in der Treu beruhn.  
Gott hält sein Wort mit Freuden, / und was Er spricht, geschicht,  
und wer Gewalt muß leiden, / den schützt Er im Gericht.
- 5) Er weiß viel tausend Weisen, / zu retten aus dem Tod,  
ernährt und gibe Speisen / zur Zeit der Hungersnot,  
macht schöne rote Wangen / oft bei geringem Mahl;  
und die da sind gefangen, / die reißt Er aus der Qual.
- 6) Er ist das Licht der Blinden, / erleuchtet ihr Gesicht;  
und die sich schwach befinden, / die stellt Er aufgericht'.  
Er liebet alle Frommen, / und die Ihm günstig seind,  
die finden, wenn sie kommen, / an Ihm den besten Freund.

詩篇62:1～2「私のたましいは黙って、ただ神を待ち望む。私の救いは神から来る。神こそ、わが岩 わが救い わがやぐら。私は決して揺るがされない。」(新改訳版)

新型コロナウイルスとの共存を模索し、人と人の距離をおくことが強調されるなかで、横のつながりの欠如と孤独が広がることが懸念されます。幸い情報技術の進歩で、距離の壁を超えた働き方やコミュニケーションが可能になりました。しかし感染への恐怖心は消えず、経済的及び社会的な格差が放置され、自分を守ろうとする人々の間で、分裂が広がる危険があるのです。

本年7月の調査で、コロナ危機のなかで雇用を失った者の8割以上は非正規労働者で、大卒未満の女性に集中しています。これらの人々には、接触を伴うサービス業従事者が多く、在宅勤務やテレワークの増加の恩恵も及んでいませんでした。全体の7割弱の人は、所得は大きく変動していませんが、3割以上の人々は、経済的な問題を抱えているのです(JILPT2020)。

そうしたなかでは、あなたは、本日の聖書を読み、沈黙して孤独になる自分の姿を想像し、恐ろしさを感じてしまうかもしれません。神様の前における魂の沈黙とは、いったい何事なのでしょう。聖書の難解さに現代人は途方にくれ、みことばから、どんどん離れていきます。

現代人は自分に魂があり、それが神様の贈り物なのだとは思っていません。しかも、私たちは、毎日、駆り立てられるように生きていて、恐れや不安を抱えたままです。それから解放されたときに、何か楽しいことで、それを発散したいのです。そもそも聖書は、疫病や災害、経済危機、さらには戦争など、人間社会におきる不条理な事件を、何も説明していないようにみえます。これでは、危機が起こるたびに、神様から離れる人々が増えていくだけです。

そもそも、神様の前に沈黙するなど、あまりに恐ろしいことではありませんか。旧約聖書の有名なくだりに、神様を見た者は死ぬなどと書かれています。そんな恐ろしいことを、誰が喜んでするのでしょう。それに、私が沈黙しても、神様は何も語ってくれないと、あなたは思うでしょう。

おそらく、神様の前に沈黙するとは、まず、自分の思い煩いや憂いや痛みから自由になることです。私たちは、どんなに望んでも願っても、そもそも、自分の思い通りになったことは、あまりないのです。

現代人にとって、世界の出来事は、全て偶然に左右されているようにみえます。全てが(サイエンスの用語では)、確率的に起きているだけのように、みえるのです。

将来が見通せないなかで、先を読む力を少しでも持てたら、私たちは、間違いばかり犯すことはなかったでしょう。サイエンスにとって大事なことは、自分の思う通りの世界を見ようとすることではなく、真実を掘り当てるために、真剣に努力することです。不確実な世界で、先を読むための努力を見失わないことです。これは、経済学においては、非常に重要なことです。

その際、強調しなければいけないのは、私たちの魂には、自分以外の人々の魂を感じることができる能力があることです。自分の思いから自由になった時、同じ瞬間に生きている人たち(そして、生きている神様)のことを思うことができるようになるはずです。私たちの心は、空間的に、広い世界にひろがり、時間的に、永遠を求めて、働くでしょう。

どうか、人間の心を、「シンギュラリティ」の理論が前提するような、冷たいインテリジェンスとは考えないでください。人間は生命を有し、世界の一部をなす魂を授かっているからです。

いずれにしても、あなたの悲しみや恐れが沈黙し、魂の平安を取り戻すことの恵みは測り知れないものです。魂の平安は、人間に創造性と豊かな実りさえもたらしてくれると思います。あなたは、生気を取り戻し、この世界で恐怖や不安を超え、共に理解しあい、生きる勇気を感じることができるはずです。

この詩篇62篇を歌ったとされるダビデが、その一生において、どれだけ多くの命の危険にさらされ続けたかということも想像してください。同時に重要なのは、この聖書のことばを、私たちが、21世紀のコロナ危機のなかで読んでいるということです。あなたには、日々、魂の平安が必要です。そのときに、どうか、聖書を手にとってください。